

# 書評

堀法律事務所  
弁護士  
福田 隆行

## 「女性と定年」

- 編著者：小島 明子
- 発行所：一般社団法人金融財政事情研究会
- 四六判・172ページ(本体1800円＋税)



著者は、女性や中高年の働き方、金融経済教育に関する調査研究に注力し、これらの分野に関する著書、論文を数多く執筆しています。本書は、男女雇用機会均等法第一世代の大卒女性が定年期を迎え、これまで主に男性の問題であった定年が女性にとっても身近な問題となりつつあるとの問題意識の下、著者ならではの視点で定年を見据えたキャリア形成の重要性を説く、キャリアの羅針盤というべき書籍です。

第1章では、これから定年を迎える女性の現状を、豊富なデータを用いながら解説しています。とりわけ、中高年女性を対象に実施された日本総合研究所の調査結果を基に、中高年女性の就業意識や私生活における課題を浮かび上がらせ、女性が定年に向けて準備すべきことを提示している点は、同社の研究員である著者ならではの手法といえ、類書との差別化が図られています。

第2章では、定年を迎える女性が知っておくべき金融知識や国の制度について説明しています。老後に必要な生活費から、年金制度、再就職活動、医療費、保険、老後の住まい、

介護、相続、終活に至るまで、定年後の生活を考えるに当たって知っておくべき情報が網羅的に記載されています。定年後のお金や相続の問題はもちろん、その後のキャリアについても早い段階で計画を立て、十分な準備しておくことの必要性を改めて認識させられる内容になっています。

第3章では、40歳代から60歳代でキャリアシフトを成功させた6人の女性へのインタビューを踏まえて、キャリアの考え方や切り開き方、さらには自分らしい人生の送り方を探っています。それぞれ経歴が異なる女性たちに共通するのは、女性が定年まで勤めてキャリアを積んでいくことが当たり前ではなかった社会の中で、男女平等という法律の建前と現実とのギャップに苦しみながらも自らキャリアを切り開いてきた強くしなやかな姿です。本章を読めば、今後のキャリア形成を考える上で参考となるパーツが見つかるでしょう。

第4章では、これから定年を迎える女性に向けた、今後のキャリアを開くための七つのメッセージが記されています。その中でもとりわけ、

労働者協同組合で働くという新たな選択肢を示している点が注目に値します。労働者協同組合は、組合員が出資をし、事業を行うに当たって組合員の意見が適切に反映され、組合員が組合の行う事業に従事することを基本原理とする組合です。労働者協同組合は、多様な働き方を実現しつつ地域の課題に取り組むための組織ですので、そこで働くことは、自分の知識やスキルを社会に役立てたり、新たな知識やスキルを獲得して視野を広げたりすることにつながっていく可能性を秘めています。著者は、2年以上にわたって労働者協同組合の調査研究を行っており、労働者協同組合で活躍する方へのヒアリング調査も多数行っています。このメッセージは、継続的なフィールドワークに基づいて生まれたもので、著者だからこそ提示できる選択肢といえます。

2021年4月1日から事業主に70歳までの定年の引き上げなどの措置を講ずる努力義務が課せられるなど、高齢者が働くための環境は少しずつ整備されつつあります。しかし、日本人の健康寿命や平均寿命を考えると、定年はキャリアの終着点ではなく、中間点であるといえます。今年度、男女雇用機会均等法第一世代の大卒女性が60歳を迎える中、多くの女性が定年を意識し、定年後のキャリアや生活に対する不安を抱えていると思います。本書は、そのような不安を減らすためになすべき備えを提示し、自分らしいキャリアを切り開ききっかけを与えるものです。また、本書で示されている定年を見据えたキャリア形成の重要性やそのための指針は普遍的なもので、他の年代の女性はもちろん、男性にとっても示唆に富むものです。

本書は、性別を問わず、企業の経営陣や人事担当者、ファイナンシャル・プランナー、政策担当者など、幅広い方に手に取っていただきたい1冊です。

本誌収録の読者アンケート（78ページ）にお答えをいただいた方の中から、抽選で5名様に上記書籍を贈呈致します。ご希望の方はプレゼント希望欄に○印をご記入の上、ご応募ください。なお、応募期日は2023年11月7日（必着）とし、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。